

第四十回 南紀短歌大会 優秀作品

【知事賞】

減るほどに美しく鳴るドロップを抱えて人はかなしい楽器

和歌山市 高野 仁美

【市長賞】

ふるさとの駅のホームに聞きし歌「いい日旅立ち」子らは五十路に

海南市 小山 睦美

【教育委員会賞】

スマホよりセレナーデの曲流れ出し「おっと私のお薬タイム」

日高川町 有本 由美子

【文化協会賞】

カーラジオから聞こえてくる風力に押されて海をこえて行かばや

御坊市 山本 祥佳

【小島 なお 特選】

減るほどに美しく鳴るドロップを抱えて人はかなしい楽器

和歌山市 高野 仁美

澄みきったひかりはすこしだけ重い秋のデイバックを背負ってる

新宮市 小野 小乃々

カーラジオから聞こえる風力に押されて海をこえて行かばや

御坊市 山本 祥佳

【小島 なお 入選】

古老唄う供養踊りに逝きし人白き手の平ひらひらと振る

白浜町 庵戸 眞知子

音もなく降りゐる雨は街頭の淡き光に君をつつめり

秋津町 杉若 喜代香

かまへんで押して押してと胸前にそつと置きゆくナースコールを

東山 大谷 敏恵

膝の上にピンクのくつ下たたみ居しかの日の親にもう戻れない

明洋 杉本 雅子

点線のあの時時の出来事が君の通夜席線になりゆく

みなべ町 榎本 徹

いつ散るか銀杏大樹はピリピリと一糸乱れぬ会社のような

龍神村 龍田 早苗

病院の二重扉を出でし時風の匂いが視界を突き指す

上秋津 中山 ゆみこ

【楠田 立身 特選】

盤上の偉業八冠若き棋士はにかみ笑まふ秋晴れ渡る

明洋 尾崎 均

付いている値段知らずにゲージ内戯るる仔猫のみんな愛らし

紀の川市 三木 たか子

ふるさとの駅のホームに聞きし歌「いい日旅立ち」子らは五十路に

海南市 小山 睦美

【楠田 立身 入選】

窓ごしにしろきぬか雨うつせみは枯れ葉を抱きてこぼれ落ちたり

白浜町 木下 正博

枯枝の杖を頼りにさくさくと落葉踏みふみ卒寿の散歩

串本町 久保 多喜子

ジャム瓶に曲りし針や折れし針わが人生のまま納まりぬ

御坊市 安田 眞由美

吹く汗の白装束の男衆は大炬火抱ふ那智の火祭

美浜町 浜田 佳世子

力尽くし咲くと思へば花一りん摘むをためらふ齡となれり

秋津町 下村 由美子

減るほどに美しく鳴るドロップを抱えて人はかなしい楽器

和歌山市 高野 仁美

ポケットに途中で分ける菓子入れて歩行車の父角で母待つ

紀の川市 中 万規子

【井谷 まさみち 特選】

これ読んで私の周りに絵本積み寄りくる孫の流行りを開く

紀の川市 奥澤 典子

体調の戻りし夫へ「グッジョブ」と若き主治医は指立て笑まう

上秋津 岩崎 洋子

スマホよりセレナーデの曲流れ出し「おっと私のお薬タイム」

日高川町 有本 由美子

【井谷 まさみち 入選】

手も汗も涙も拭いたハンカチに吾の弱味を握られている

和歌山市 中尾 加代

ピンク色の私印の作業帽しつかとかぶり畑へ出でゆく

日高町 鍵本 和代

膝の上にピンクのくつ下たたみ居しかの日の親にもう戻れない

明洋 杉本 雅子

好い人と言われなくてもいいんだよ歌詠む母さん僕は大好き

高雄 塩崎 美千代

「まさひろ」と呼ぶ母の声面会で健否如何にと耳かたむける

和歌山市 立川 唱寛

あをによし奈良の都のクラス会背負ひバックにみかん詰めゆく

日高川町 片山 清子

夕べには陽の入ることを知りながら何か切なき秋の夕暮

日高川町 原見 慶子

【連盟賞】

ジャム瓶に曲りし針や折れし針わが人生のまま納まりぬ

御坊市 安田 眞由美

もし更地一面に花咲かせたら蝶になり来よ亡き友、うから

御坊市 山本 範子

かまへんで押して押してと胸前にそつと置きゆくナースコールを

東山 大谷 敏恵

寛解の姉は穴あけ花珠のピアスで喜寿の齡仕上げる

海南市 登地 道子

過去未来想ひは往きつ戻りつつ編目を拾ふ孫のセーター

美浜町 山岡 紀江

さりげなく頬に絡まる髪濡れて零れくるもの胸に沁みくる

和歌山市 松原 寿子

角砂糖カップの中に溶けゆく間夫の主張聞き流しをり

美浜町 森本 香代子